キラリ話題の人

山田　セツ子さん

・前県南里親会会長
・前栃木県里親連合会副会長
・JOHOKUスポーツクラブ指導員
・栃木県フォスタリング・パートナー

里親制度をご存知ですか？

「里親」って聞いたことはあっても、どんな制度なのか分からない、どこか遠い言葉に感じる方も多いのではないかと思います。そんな中で里親を38年続けている山田セツ子さんにお話を伺いました。約束した場所は堀米町の武道館で、とても楽しそうに子どもたちに柔道の指導をされていました。

里親になった理由は、「とにかく子どもが好きですが、私たち夫婦には子どもがいませんでした。ある時、友人から里親で預かっている子どもを紹介され、自分もやってみたいと強く思いました」さっそく飲食店を経営する夫と協力し合い、里親になることを決意したそうです。

「初めて預かった子は、虐待を受けていた5歳の男児で、多くの問題を抱えており、慕ってくれるかとても心配で、ドキドキしながら会いました。多動症の子を周囲の方々が理解してくれたのがありがたかったです」その子に柔道を習わせたのが縁で、山田さんは柔道指導者になりました。「育てた子が大人になり、自分の経験が誰かの役に立てばと、今では自身の生い立ちを人前で語れるようになり、本当に嬉しく、誇らしく思っています」と笑顔で話されます。

これまで9人を預かり、短期で多くの子どもたちに関わってきた山田さんは、ずっとその子たちと交流を続けており、また里親になった方をサポートする活動もしています。昨年、全国里親会創設70周年記念式典において、内閣府特命担当大臣から表彰を受けました。現在佐野市には約10人の里親がいます。本格的な里親でなくても、短期預かりのショートステイ制度もあります。里親制度や特別養子縁組制度が普及しないのは、圧倒的な情報不足が一つの原因といわれています。

「里親をやることで、何より自分が成長させてもらっています」という山田さんの笑顔がとても素敵です！

（市民記者　永倉文子）

▲里親講座の様子

ようこそ市長室からこんにちは！

6月に入り、新緑が美しい季節になりました。本市の北部は、緑豊かな森林や美しい清流など自然環境に恵まれた奥佐野（中山間地域）が広がっており、山あいを縫うように北に向かって伸びる大きく3つの沢には、住宅地が点在しています。

美しい緑が広がる一方で、土砂災害の危険も潜んでおり、市域にある約950カ所の土砂災害警戒区域の多くは、この奥佐野の住宅地を覆うように指定されています。

そのため、大雨などによる土砂災害の危険性が高く、孤立集落が生じる可能性があり、昨年度、県が実施した「孤立集落発生の可能性に関する状況調査」においては、この奥佐野を中心に本市の90集落が孤立可能性集落として該当し、県全体544カ所の約17パーセントを占め、県内で1番多い自治体となっている状況です。

そのような中、先月13日に氷室地区において、県および市が共催し、警察、消防、自衛隊などの防災関係機関にご協力をいただき「孤立集落支援に係る実動訓練」を実施しました。住民の救助や物資の輸送といった実動訓練をとおして、災害時の情報共有のあり方、応急活動の重要性を再認識いたしました。

県では今年度「孤立可能性集落の精査」として、対策が必要な地域を精査するほか、さまざまな支援策を予定しておりますが、本市においても、孤立可能性集落への対策は、喫緊の課題として捉えております。対策に当たっては、孤立が発生した場合でも、被害を最小限に抑え、早期に復旧を図ることができる体制を整備するため、まずは必要な調査を県と歩調を合わせながら進めてまいります。

6月は、梅雨の季節となります。例年この時期は雨が多くなり、大雨となると災害が発生する危険性が高まりますので、日ごろから気象情報やハザードマップを確認するなど災害への備えをお願いいたします。

佐野市長
金子　裕

子ども食堂を支援

オープンガーデン「よって見っか」

田沼下町の牧野さんのお宅では、毎月第1日曜日の午後に、ボランティアの皆さんによるお茶（コーヒー、紅茶）、手作りケーキなどを楽しむオープンガーデンが開かれています。会の名前は「よって見っか」。ここではオカリナやギター、尺八、歌、フォークソング、フラダンス、手品などを楽しみながら、子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方が集まり、話に花を咲かせています。広い庭園もなかなか見応えがあり、庭園の一角にある画廊では、絵画などを鑑賞することもできます。

また、この会で集められた募金は子ども食堂へ寄付されます。子ども食堂の名称は「みんなあつまれ！」（略称「みなあつ」）で、毎月第4水曜日13時～17時、田沼地区公民館で行われています。

（市民記者　福田満）

①飾り付けられた牧野さんのお宅
②ピエロによる曲芸と手品紹介
③ギター演奏とフォークソング

葛生伝承館で初開催

フレスコ画解説と歌のコンサート

5月17日㈯、葛生伝承館でフレスコ画の解説および歌のコンサートが開催されました。

フレスコ画については、戸倉英雄さん、福島恒久さんが実際に制作を進めている葛生伝承館の外壁前で解説を行いました。フレスコ画の特徴的な技法や制作中の作品に込められた「佐野らしさ」を紹介し、参加者は作品から佐野らーめんや耳うどんなどを見つけ、盛り上がりを見せていました。

館内で行われた歌のコンサートでは、ヴォーカルグループ Bene（ベーネ）による美しい歌声とピアノの音色が響き渡り、来場者は心癒やされる時間を過ごしていました。

初の実動訓練で実効性を検証

孤立集落支援実動訓練

5月13日㈫、能登半島地震で課題となった孤立した集落の支援について、栃木県と佐野市で実動訓練を実施しました。

訓練は、佐野市内で大雨が降り続いた後、大規模な地震が発生、旧氷室小学校およびあきやま学寮付近で土砂災害により一部地域が孤立した想定で行われました。

陸上自衛隊や佐野市消防本部など、14の団体と地元住民合わせて約80人が参加し、避難を希望する住民の受付や誘導、通信体制の確保、ドローンを活用した情報収集と物資輸送、ヘリコプターによる救助訓練などを実施しました。

記事の訂正について

広報さの５月号２ページの掲載内容に一部誤りがありました。訂正箇所は次のとおりです。
（正）「⑱神宮次秀樹」（誤）「⑱神宮寺秀樹」 お詫びして訂正いたします。